

(注)「コモロ連合月報」は、新聞報道等をまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にコモロ政府の公式見解と異なる内容が含まれる場合もあるため、予めご留意をお願いします。なお、各記事冒頭の日付は、報道された日付です。

## コモロ連合月報(2026年5月)

### 《主な出来事》

#### 【内政】

- **6日** (Al Watwan) アザリ大統領は国民向け演説で、国際情勢(中東情勢や原油価格の高騰)を背景に、石油製品価格の「必要かつ責任ある調整(値上げ)」を実施すると発表した。政府はこれまで値上げを回避してきたが、国営石油会社の損失が限界に達し、供給維持のため決断した。
- **11日** (La Gazette 他) 閣議決定により公共交通運賃が再び引き上げられたことを受け、運送業者によるストライキが発生した。ストライキ参加者らは、ガソリン価格や新運賃の決定プロセスにおける協議の欠如を強く非難している。
- **15日** (マダガスカル L' Express) コモロで燃料価格の高騰(軽油 46%増)に抗議するデモが4日目を迎え、治安当局による激しい弾圧が続いている。首都モロニ南部のマラズニ等では道路が封鎖され、商業活動や交通がストップ。当局は若者らを多数逮捕し、野党の仕業の旨を主張する一方、住民からは警察が民家に侵入して女性や子供を暴行したとの証言。緊張は極限に達しており、価格引き上げが撤回されなければ抗議はさらに激化する見通し。
- **18日** (Al-fajr) 16日、数日間にわたるストライキや国内の混乱を受け、燃料価格の値上げを一時的に凍結(停止)すると発表した。労働組合や市民団体はこの決定を歓迎し、新たな社会危機の回避に向けた持続的な対話を求めている。

#### 【外政】

- **19日** (Al-fajr) 15日、ムバエ外務大臣は、駐コモロ中国大使と会談し、台湾を中国領土の不可分の一部とみなす「一つの中国」原則を支持することを再確認した。

### 1 内政

- **6日** (Al Watwan) アザリ大統領は国民向け演説で、国際情勢(中東情勢や原油価格の高騰)を背景に、石油製品価格の「必要かつ責任ある調整(値上げ)」を実施すると発表した。政府はこれまで値上げを回避してきたが、国営石油会社の損失が限界に達し、供給維持のため決断した。  
<https://alwatwan.net/societe/adresse-%C3%A0-la-nation-i-le-pr%C3%A9sident-annonce-%C2%ABun-ajusteme...>
- **7日** (La Gazette) アザリ大統領による燃料価格引き上げの発表を受け、全国運輸労働組合(Usukani wa Masiwa)は、この決定が施行されれば「無期限ストライキ」に突入すると表明した。
- **11日** (La Gazette他) 閣議決定により公共交通運賃が再び引き上げられたことを受け、運送業者によるストライキが発生した。ストライキ参加者らは、ガソリン価格や新運賃の決定プロセスにおける協議の欠如を強く非難している。
- **15日** (マダガスカル L' Express) コモロで燃料価格の高騰(軽油46%増)に抗議するデモが4日目を迎え、治安当局による激しい弾圧が続いている。首都モロニ南部のマラズニ等では道路が封鎖され、商業活動や交通がストップ。当局は若者らを多数逮捕し、野党の仕業の旨を主張する一方、住民からは警察が民家に侵入して女性や子供を暴行したとの証言。緊張は極限に達しており、価格引き上げが撤回されなければ抗議はさらに激化する見通し。

し。

- **16日** (マダガスカルL'Express) 首都モロコでは、生活費や燃料価格の高騰に抗議する商業者らのストライキが5日目を迎え、多くの店が閉店し緊迫した状況が続いている。一方で、インド系実業家が所有する一部の店舗は厳重な警備のもと営業を継続。金曜日には衝突防止のため憲兵隊が配置されたが、この過度な警戒態勢が首都の緊張をさらに高めていると、動員された商業者や住民から批判の声が上がっている。
- **16日** (マダガスカルL'Express) 仏メディアFrance24のインタビューで、アザリ大統領が「コモロの生活はフランスより快適」と発言し、国民の猛反発を招いている。断水や停電、物価高に苦しむ市民や移住を夢見る若者にとって、この発言は現実を無視した特権階級の世離れた言説と映り、指導者層との深い溝を浮き彫りにした。燃料価格高騰への抗議デモが続く極めて緊迫した情勢の中で放たれたこの言葉は、政府と国民の不信感をさらに悪化させるリスクを孕んでいる。
- **18日** (Al-fajr) 16日、数日間にわたるストライキや国内の混乱を受け、燃料価格の値上げを一時的に凍結(停止)すると発表した。労働組合や市民団体はこの決定を歓迎し、新たな社会危機の回避に向けた持続的な対話を求めている。

## 2 外政

- **7日** (La Gazette) 5日、マダガスカル常駐の(ママ)ケイト・チャムリー・コモロ豪州大使は、アザリ大統領に信任状を提出。協議では、気候変動対策、ブルーエコノミー、海上安全保障を中心に、両国協力を強化する方針が確認された。豪州は今年、コモロ沿岸警備隊員2名を研修に受け入れる予定で、気候交渉に関する研修や、地域大学ネットワークを通じた学術交流も進めるとしている。  
[https://www.lagazettedescomores.com/politique/diplomatie-l%E2%80%99australie-consolide-sa-pr%C3%A9sence-aux-comores-.html?utm\\_source=chatgpt.com](https://www.lagazettedescomores.com/politique/diplomatie-l%E2%80%99australie-consolide-sa-pr%C3%A9sence-aux-comores-.html?utm_source=chatgpt.com)
- **8日** (La Gazette) シャポン駐コモロ・フランス大使は、ナイロビ開催の「Africa Forward」仏・アフリカ首脳会議を機に、コモロ・仏の協力関係刷新に言及。ディアスポラ投資促進、起業家支援、マヨットへの不法移民問題の解決、ビザ発給改善が重点議題。ロシアの影響力拡大には懸念を示しつつも、仏コモロ関係の堅固さを強調した。  
[https://lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/sommet-de-nairobi-comment-paris-et-moroni-veulent-r%C3%A9inventer-leur-coop%C3%A9ration-.html?utm\\_source=chatgpt.com](https://lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/sommet-de-nairobi-comment-paris-et-moroni-veulent-r%C3%A9inventer-leur-coop%C3%A9ration-.html?utm_source=chatgpt.com)
- **11日** (Al-fajr) 9日、駐マダガスカル・ロシア大使館のブリヤク臨時代理大使は、モロコで対ドイツ戦勝81周年記念式典を開催し、コモロ政府、外交団、民間企業などから200名を超える参加者が出席した。
- **19日** (Al-fajr) 15日、ムバエ外務大臣は、駐コモロ中国大使と会談し、台湾を中国領土の不可分の一部とみなす「一つの中国」原則を支持することを再確認した。  
<https://www.al-fajrquotidien.com/cooperation-sino-comorienne-les-comores-reaffirment-leur-soutien-au-principe-dune-seule-chine/>

## 3 経済

- **10日** (La Gazette) 政府は、燃料価格を平均35%引き上げた。新価格ではガソリンと軽油が大きく値上がりし、生活費への影響が懸念されている。一方、政府は家計負担を和らげるため、米や小麦粉、砂糖、食用油、肉、

魚、医薬品など生活必需品の輸入関税・税金を3か月間40%減免すると発表した。

[https://lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/prix-du-carburant-une-forte-hausse-de-35-%C3%A0-la-pompe-.html?utm\\_source=chatgpt.com](https://lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/prix-du-carburant-une-forte-hausse-de-35-%C3%A0-la-pompe-.html?utm_source=chatgpt.com)

(了)